

2011年度日本語予備教育夏学期コース報告

石上 綾子 柳田 しのぶ
田中 孝始 小浦方 理恵

要 旨

本稿は2011年度夏学期に行った日本語予備教育夏学期コースの実践報告である。本年度の夏学期コースは東日本大震災の影響で、予定されていた4週間から約2週間に短縮して行われた。しかし、本年度も予備教育春学期修了者以外の学生にも広く受講生を募集し、昨年度より多くの受講生が集まった。そして、受講生達は短期間ではあったが意欲的に取り組んでいた。本稿では特殊な事情の中で本年度行った予備教育夏学期コースの実践やコース修了後に実施した学生へのアンケート調査の結果をまとめ考察を行った。

【キーワード】 夏学期コース 日本語予備教育 アンケート調査

A Report on the Summer Japanese Language Course in 2011

ISHIGAMI Ayako, YANAGITA Shinobu
TANAKA Takashi, KOURAKATA Rie

【Abstract】 This is a report on the Summer Japanese Language Course. The Summer Course is usually four weeks, but it was shortened to two weeks as a result of the Tohoku earthquake. This year's Summer Course, we also accepted students who were not Intensive Japanese Students. As a result, more students participated than the previous year. Despite the short time, the students appeared to study eagerly. We conducted a questionnaire to find out reasons for taking the Summer Course. Question items included students expectations, and opinions in regard to the course. We report the results of the questionnaire.

【Keywords】 Summer language course, Intensive language course, questionnaire.

1. はじめに

3月11日の未曾有の東日本大震災は日本に大きな被害をもたらした。そして、筑波大学留学生センターも被害を受け留学生も被災し、留学生の中には帰国する者や一時帰国し再び来日する者もいた。本年度の日本語予備教育春学期コースは、震災の影響で当初の予定より1週間遅れて始まり、受講予定者の中には日本への留学を辞退する学習者もいて、例年よりかなり少人数の予備教育がスタートした。

また春学期が遅れて開始されたため、修了も1週間ずれ込んだ。さらに本年度の夏学期は震災の影響により、夏の電力不足に対応するため電力使用制限が実施されることになり、そのため当初予定されていた4週間の夏学期の期間を今年度は約2週間に短縮して行うことになった。

昨年度の夏学期は受講生を日本語研修生からも広く募集したり、授業を『Situational Functional Japanese』（以下、SFJと略す）中心に行ったり、「漢字タイム」という時間を設定して漢字の導入を行う等の新しい試みを取り入れた。本年度はこれら昨年度の実施結果を考慮し、夏学期に活かしたいと考えていたが、大震災の影響で大幅な夏学期の短縮があり、昨年度の夏学期の結果を十分に活かすことができなかったとは言えない。しかし、昨年度よりも多くの受講希望者が集まり、学習者は昨年度と同様に意欲的に学んでいた。このように短期間の夏学期の実践ではあったが、授業や授業運営、学習者へのアンケート調査についてまとめたものを報告する。

2. 夏学期コースの概要

本年度の夏学期コースは、昨年度と同じく春学期の集中コース（週20コマ）または半集中コース（週10コマ）を修了した後の実施となった。しかし期間は約2週間に短縮され、2011年7月14日から29日までの間に行われた。そのため各クラスでの「漢字タイム」を含め、1クラスを除き技能別の授業を実施することはできなかった。授業は各クラス、毎日2コマ（1コマは75分授業）、コース全体で10日間行われた。

コースは4クラス体制で行われた。Aクラスのみ予備教育春学期からの継続受講者のために技能別のクラスを設けた。以下、夏学期コースの詳細について述べる。

2.1 受講者について

本年度の春学期が終わった後に、予備教育修了者や補講コースの学習者に受講希望を募った。そして昨年度同様、予備教育修了者以外の学習者も希望があれば受講を認めた。広く受講生を募集した結果、予備教育修了者に加え補講コースからの学習者や大学院生等が受講することになり、昨年の夏学期コースよりも多い42人の希望者が集まった。既習内容や日本語能力を考慮して、学習者は4つのクラスに振り分けられた。

各クラスを構成する学習者の人数と国籍は表1の通りである。

表1 各クラスの構成

	Bクラス 午後2コマ	Aクラス		Dクラス 午前2コマ	Dクラス 午後2コマ
		午前2コマ	午後2コマ		
学習者数	8人	5人	12人	8人	9人
継続 ¹	2人	5人	3人	2人	2人
新規 ²	6人	0人	9人	6人	7人
国籍	パキスタン ブラジル シリア 中国3人 ナイジェリア トルクメニスタン	イラン カンボジア スリランカ メキシコ インド	中国3人 イラン2人 メキシコ タイ ミャンマー カザフスタン カンボジア スリランカ インド	ウクライナ 中国語圏3人 キルギス メキシコ コスタリカ スペイン	中国5人 ウクライナ タジキスタン インド メキシコ

2.2 各クラスのコース内容

コースのスケジュールや内容は、各クラスの担任（夏学期コースのみの担任）がクラスの学習者の実態に合わせて決定した。4つのクラスのレベルはそれぞれ異なっているが、メイン教材であるSFJはすべてのクラスで使用している（A午前クラスの技能クラスのみSFJは使用しなかった）。それ以外の副教材は、学習者の学習状況に応じて選んでいる。その他にディクテーション、文法・聴解テスト等を各クラスの状況に合わせて取り入れた。各クラスで使用した夏学期コースの教材は表2の通りである。

表2 使用教材

<p>テキスト：『Situational Functional Japanese』SFJ本冊 『Situational Functional Japanese』SFJミニ版 漢字『Basic Kanji Book』（BKB） 聴解『わくわく文法リスニング』</p> <p>宿題：Review Sheet (RS)、Vocabulary Check (VC) New Word Check (NWC) Grammar Check (GC)、Sentence Writing (SW) 等</p>
--

2.3 クラスの紹介

ここでは、学習者の様子、取り組み、具体的な授業の進め方について日本語文法レベルの低いクラスからBクラス、Aクラス、D午後クラス、D午前クラスの順に紹介していきたい。

2.3.1 Bクラス

夏学期の中で最も初級のクラスだった。受講者は夏学期開始当初8人だった。その内、1学期に補講クラスのJ100を修了した学習者が5人、その他3人は昨年度の予備教育、今年度の予備教育修了者等で、ほとんどの学習者はSFJの第6課までは学習していた。

スケジュールはSFJの第7課から第9課まで行う予定を組んだ。その結果、1学期から継続して学ぶことになった学習者と復習として学ぶ学習者とに分かれた。

授業はStructure Drills (以下SDとする) で文法の学習をし、学習した表現や文型を取り入れた会話練習Conversation Drills (以下CDとする) を行った。そして、会話だけでなく読み書きを含め、応用的な活動が行えるようにするためTask & Activities (以下T&Aとする) の順で行った。

課の始めにはNew Word Quiz (以下NWQとする)、Grammar Check Quiz (以下GCQとする) を実施した。毎回の授業の始めには新出語彙の確認、また毎日、ディクテーションで文の聞き取りと書き取りの練習を行った。10日間という例年に比べて短い期間であったため、文法と聴解のテストは1回だけ実施し、オーラルテストは実施しなかった。

クラスの問題点としては、開始当初希望者は8人であったが、出席率が80%未満だった受講生が3人いたことである。欠席の理由をはっきりさせ、学習者に合った対応をしていく必要があった。

2.3.2 Aクラス (A午前クラス・A午後クラス)

AクラスはA午前クラスとA午後クラスで授業形態が異なる。最初に技能クラスとして行ったA午前クラスの内容を述べ、次にSFJを中心に行ったA午後クラスの内容について述べる。

2.3.2.1 A午前クラス

予備教育コースの春学期を受講していた5人を対象に午前2コマの技能クラスを行った。技能クラスで扱ったのは漢字、聴解、会話、読解、作文であり、漢字以外は曜日ごとに異なった技能を実施した。実施コマ数が異なるのはそのためである。また各技能で実施した内容も異なるので順に説明する。

漢字クラスは全10コマで、夏学期コース中毎日1コマ実施した。使用テキストはBKB

vol.1であり、第21課から第24課までを実施した。なおチェックテストは2回実施した。聴解クラスは全1コマで、わくわく文法リスニング（以下わくわくとする）を中心に行った。会話クラスは全4コマで「日本に来てびっくりしたこと」をテーマに3コマ準備を行い、4コマ目にクラス内でスピーチを行った。読解クラスは全2コマで、ある程度まとまった文章を読み、内容理解を行った。作文クラスは全2コマで、指定のテーマで作文を書いた。そのうち1コマは、技能の会話授業と同じテーマで作文させ、会話の授業で行うスピーチの内容の充実や、文法の間違いの修正を図った。

春学期からの継続の学習者であったため授業の形式やクラスの雰囲気にも慣れており、短い期間ながらも集中して学習していた。コミュニケーションや会話に対しての学習意欲が高く、質問や発言も活発に見られた。

2.3.2.2 A午後クラス

学習者は予備教育の春学期からの継続の学習者3人と夏学期からの学習者9人の合計12人であり、夏学期からの学習者は主に補講クラスJ200からJ400までのクラスに出席していた学習者だった。追記すると、春学期からの継続の3人はA午前の技能クラスも受講していた。ゆえに彼らは実質1日4コマの集中講義を受講していたことになる。

授業は全部で20コマであった。予備教育の学習者をメインに据えたために使用テキストはSFJvol.1とした。授業内容は春学期からの続きとして第12課から第14課までを実施し、教科書のSD、CD、T&Aの順で学習した。また聴解を補うものとしてわくわくを適時使用した。さらに各課の最初の授業でGCQとNWQを実施することによって学習者の予習を促した。テストはフィードバックの時間を確保するため第12課から第13課までの2課分のみ実施した。なお、テストで実施できなかった第14課の確認については宿題（RS/NWC）で行った。オーラルテストは短期間であったため実施しなかった。

このクラスは予備教育の学習者と補講コースからの学習者の混合クラスであり、学習者の学習への意欲は高かった。また補講クラスからの受講者は、復習や予習を目的にしている者が多かった。発言や質問については、クラス人数が増えたためか少なくなったが、皆それぞれに集中している様子がかがえた。

2.3.3 D午後クラス

本クラスの学習者は、レベルチェックテストとインタビューから、SFJ第15課までの学習内容が身につけていると判断した学習者を対象とした。

学習者のレベルは、予備教育春学期の継続者でSFJ第15課まで学習した学習者2人、1学期に第18課まで学習した学習者3人、第24課まで学習した学習者3人、既に文法では中上級のレベルの学習者1人など、非常に多様だった。よってスケジュールの設定は難しい

作業になったが、授業内容は予備教育春学期からの継続学習者を中心として行うことにし、テキストはSFJのミニ版第16課から第18課までを実施した。SFJはSD、CD、T&Aの順で学習し、また聴解を補うものとしてわくわくを使用した。最終日に文法と聴解のテストを行い、直後にフィードバックをした。時間的に余裕のあるスケジュールではなかったため、ほぼ毎日宿題（VC/GC/RS等）を課し、また授業中にクイズを行うことで予習と復習を促し、定着に努めるようにした。

このクラスは4人の教師で担当したが、プレースメントテストの結果と事前アンケート(3.2.3.1 D午後クラス事前アンケート参照)のコピーを回覧した。そして、SDについては初めて学習する継続の学習者がいること、復習が目的で参加している既習者が多いことから、導入からしっかりと行うこと、CDやT&Aについては、会話練習や聴解練習に十分な時間を割くことなどを確認した。

2.3.4 D午前クラス

本クラスの学習者は、レベルチェックテストやインタビューから、SFJ第18課までの学習内容が身につけていると判断した学習者8人を対象とした。しかし習得レベルは、教科書の第18課を勉強したばかりという学習者、反対にもう既にこのコースで扱う項目は学んでいるが、学んだことの練習・復習の場として受講したいという学習者など、様々であった。

このコースは春学期からの続きとして設定し、第19課から第22課までを実施した。夏休み中に日本語学習を進めることで、秋学期からさらに上のレベルの授業を受けられるようにしたいという学習者の希望により、授業の進度をできるだけ早め、毎回宿題（NWQ/RS/短文作成等）を課すことで予習と復習を促し、学習項目が定着するようにした。

テキストはSFJのミニ版を使用した。授業はまず、新しい課に入る前にGCQを行い、予習をしてあるかを確認した。その後、教科書のSDに入り、その日に学習した文法項目を次の日にSDクイズを行うことで確認した。また、聞き取りの練習としてわくわくを使用し、授業で学んだSDと対応する課を扱った。その後はDVDでこの課の目標となる言語行動を確認し、CDで会話を練習、最終的にはロールプレイができるように進めた。

テストは最終日の1コマ目に文法テストと聴解テストを行い、2コマ目にフィードバックをした。

3. アンケート結果

夏コースの振り返りをするにあたり、コース修了までに各クラスの学習者を対象にアンケート調査を行った。アンケートは自由記述形式であり、日本語と共に英語の訳を付け、日本語、英語どちらでも回答できるように配慮した。

3.1 コース全体の結果

ここでは、各クラスで共通していた質問項目の結果を示し考察を述べる。

表3 質問1：夏学期に参加した理由（複数回答）

日本語が上手になりたい、日本語をもっと勉強したい	17人 (50%)
勉強したものを忘れず継続していくため	7人 (20%)
話せるようになるため	3人 (9%)
時間があった	2人 (6%)
クラス進級のため	2人 (6%)
その他（集中コースのため自動的に・趣味のため・日本で暮らすため）	3人 (9%)

表4 質問2：日本語をもっと勉強したい理由（複数回答）

コミュニケーションのため	16人 (40%)
進学、専門、学位のため	12人 (30%)
生活するため、視野を広げるため、文化理解のため	8人 (20%)
仕事に活かすため	2人 (5%)
その他（日本語能力試験受験のため・日本語は美しい言語だと思うから）	2人 (5%)

表3の通り、夏学期コースを受講した理由について、学習者の半数が「日本語が上手になりたい、日本語をもっと勉強したい」という理由をあげている。また、主に復習のためにこのコースに参加した学習者がいる一方、来学期からのレベルアップを狙い、コースに参加した学習者もいた。このことから、受講者は各自の明確な目的を持ってコースを選び、授業に臨んでいたことが分かる。そして、「話せるようになるため」という項目が3番目に多かったことから、日本語能力の中でも、特に「話す能力」を重点的に伸ばしたいと考えていた学習者が多かったことがうかがえる。

さらに、日本語を勉強したい理由についても、漠然としたものではなく、日本人とコミュニケーションがとれるように、大学院を受験するために等、明確な理由をあげている学習者が多かった（表4）。これは学習者が春学期または1学期にどのコースを履修していたかはあまり関係なく、夏学期コース受講者に共通したものであった。

次に、夏学期コースで勉強したかったことでは、会話や今の能力より上のレベルの内容、日本語の復習と運用をあげる学習者が多かった。日本語能力の中でも、作文や聴解に比べ、会話の能力を伸ばしたいと考えている学習者が多いことが分かるが、この結果は、質問1（表3）の結果とも共通しているものである。

表5 質問3：夏学期コースで勉強したかった内容（複数回答）

会話	8人 (24%)
今の能力より上のレベルの内容	7人 (20%)
日本語の練習と運用	7人 (20%)
復習	3人 (9%)
作文	2人 (6%)
聴解	2人 (6%)
特定の項目（活用、敬語など）	2人 (6%)
技能を向上させる	2人 (6%)
間違いを知り、直す	1人 (3%)

表6 質問4：夏学期コースの一日の授業数について

<2コマクラス>	
ちょうどいい	20人 (74%)
少ない	6人 (22%)
ちょっと多い	1人 (4%)
<4コマクラス>	
ちょうどいい	4人 (80%)
多い	1人 (20%)

今年度の夏学期コースでは2コマクラス（Bクラス、D午前クラス、D午後クラス）と4コマクラス（Aクラス）の2つの形態で授業を行った。そのどちらの場合でも一日の授業数は概ね満足しているようであった。4コマクラスは2コマクラスの倍の授業数であったが、4コマ中2コマは技能別の授業だったため、学習者の集中力が持続したのではないかと考えられる。

表7 質問5：夏学期コースの期間について

短い	15人 (50%)
ちょうどよかった	12人 (40%)
少し短い	2人 (7%)
とても短い	1人 (3%)

表7から分かるように、震災の影響によって昨年度より夏学期コースの期間が減ったせいか、夏学期コースの期間について短かったと感じている学習者が半数以上にものぼった。来年度は例年通りの期間に戻することを期待したい。

表8 質問6：このコースについて満足しているか

満足している	28人 (88%)
満足していない	4人 (12%)

コースの満足度を見てみると、満足しているという回答が約9割になった。その理由は、「内容が良かったから」「理解が深まったから、役に立ったから、能力が伸びたから」などであった。この結果から、期間が短かったという問題点はあるものの、内容面では学習者たちの希望を満たす授業が達成できたのではないかと推察される。

反対に、満足していないと言う回答の理由には、「多くの内容が勉強できなかったから」「期間が短かったから」と言うように、コース期間の短さによるものが多かった。その他の理由には、「クラス構成、レベルが適切ではなかった」というものがあつた。先述したように、このコースには復習のために参加した学習者とレベルアップのために参加した学習者とがおり、同じクラスにプレイスされていても、彼らの持つ日本語能力には差があつた。受講目的や日本語能力に差がある学習者たちに対し、どのようにクラス分けするのか、そしてどのような授業を行うのかは今後の課題であろう。

表9 質問7：来年度もこのようなコースを希望するか

はい	22人 (67%)
はい (条件付き)	6人 (18%)
いいえ	0人 (0%)
不可	5人 (15%)

来年度の夏学期の実施希望に対しては、「いいえ」という回答はなかつた。これは、表8のコースの満足度に符合する結果だったと言えるだろう。また、Aクラス、Bクラスの学習者については全員が来年度も夏学期コースに参加したいとの回答だった。

これは、クラス別の夏学期コースへの参加動機についてのアンケート結果や日本語学習歴を見ると、D午前、D午後クラスの学習者と比べ、A・B両クラスの学習者が日本へ来て、まだ日が浅く学習や生活の面で日本語の必要性を強く感じ、学習動機が非常に強いことが理由として推測できる。これに対して、D午前とD午後のクラスでは、「来年の夏は既に卒業の予定で帰国している (4人)」「実験など専門の学業が多忙になる (1人)」などの理由で、現実的に参加は不可能であると回答している。

条件付きの参加希望は「来年の専門科目の忙しさが判然としないが時間があれば (3人)」「期間がもう少し長ければ (1人)」「J500以上の高いレベルの授業なら (1人)」「2学期に一つ上のレベルに行けるなら (1人)」という回答だった。

表10 質問8：1日何コマの授業を希望するか

1コマ～2コマ	1人 (3%)
2コマ～3コマ	24人 (73%)
3コマ～4コマ	4人 (12%)
4コマより多く	4人 (12%)

1日の授業時間は2コマから3コマが全体の約4分の3を占め、集中講義なら5コマから6コマでもいいという学習者もいた。

また、コースの期間については、今回行われた10日間のコースがいいという学習者は1人に過ぎず、3週間から4週間が12人、1か月が14人、1か月以上が6人とほとんどの学習者が夏学期コースの期間の延長を求めている。また、開始時期については、1学期終了後すぐ、あるいは7月上旬と回答した学習者が24人、中旬、あるいは3週間後とした学習者が6人、その他、8月から2人、新学期（2学期）の前が1人だった。

表11 質問9：来年度の夏学期コースはどのような授業内容がいいか。

(自由記述)

会話について（時間を増やしてほしい、日常生活で使える会話の学習など）	11人 (29%)
既習ではなく、新しい内容の勉強をしたい	8人 (21%)
今回の内容で満足	6人 (16%)
文法について（授業の改善・重点的な復習をしてほしいなど）	2人 (5%)
議論など対話的なアクティビティーをしたい	1人 (2.6%)
聴解の時間を増やしてほしい	1人 (2.6%)
語彙を増やしてほしい	1人 (2.6%)
読むことを学習したい	1人 (2.6%)
その他（ペースを落としてほしい、見学があるといいなど）	6人 (16%)
無回答	1人 (2.6%)

表11を見ると、今回のような内容がいいという学習者を新しい内容を勉強したいという学習者が上回った。夏学期コース参加者の日本語学習への意欲の高さがうかがわれる。また、会話や議論についての学習内容への言及は12人と最も多く、学習者が日本での生活や学習に直接結び付く、会話でのコミュニケーションの学習を希望していることがわかった。

最後に、本年度の夏学期の全体的な感想を自由記述で書いてもらったところ、教師やクラスメートに対する回答が5人ともっとも多く、感謝など肯定的な記述が全てだった。その他レベルについての記述、授業のペースについての記述、内容に対する記述などがあつたが、これはクラスで異なっていたため、各クラス別の報告を参照していただきたい。

以上、ここでは夏学期コースの4クラス全体に共通するアンケート項目の結果と考察を述べた。

3.2 各クラスの結果

ここでは、各クラスそれぞれが個別に質問したアンケート項目の結果について述べる。こちらからBクラス、Aクラス、D午後クラス、D午前クラスの順で報告する。

3.2.1 Bクラス

コース修了時に、学習者に対して以下のようなクラス独自の項目について自由記述式のアンケートを行った。アンケート結果は次の通りである。また、以下、表中の点線下は回答の理由である。

表12 Bクラスのアンケート結果

質問1：CDについて	
よかった	4人
少なかった	1人
質問2：T&A・タスクについて	
覚えるのに役に立ってよかった	3人
とてもよかった	2人
質問3：クラスの勉強で満足できなかったことは何か	
特になし	4人
クラス数が少ないので合ったレベルで勉強できない	1人
質問4：クラスのレベルについて	
合っていた	1人
1年前に予備教育と夏学期に参加していたので難しくなかった	
合っていない	1人
上のクラスは人数が多いのでBクラスがいいと言われた	
質問5：クラスのレベルについて	
時間が少ないし、授業回数も少ない	1人
見学があるとよい	1人
とても役に立った。来年も今年のような形がよい	1人
特になし	2人

本クラスの学習者は、夏学期クラスでの学習について概ね「よかった」と回答している。本クラスのような初級前期の学習者は、日本語を学習しているものの、あまり積極的に日本語を使わず、授業中の質問などは英語になってしまう傾向があった。そこで、学習した文法事項や表現を使ってコミュニケーション的な活動を取り入れ、少しでも日本語で会話ができるようにするため、各課の最後にT&Aを組み込んだ。また、学習内容をゆとりあるものにし、1コマのSFJの学習内容を少なくして残りの時間を、学習内容と関連のあるタスクに使った。このT&Aやタスクについても学習者は覚えるのに役に立った、よかったと

いう声がほとんどだった。

本クラスの学習者のうち2人は上のレベル（A午後クラス）でも問題なかったと思われる。その内1人はアンケートにクラスのレベルが合っていなかったと答えている。実際、文法、聴解、会話等ほとんど問題なくできていた。しかし、授業中はよく話したり質問をしたりして、積極的に学んでおり学習の内容についての不満は特に書かれていない。もう1人は本人で納得し、復習のために参加していたため問題はなかった。レベルや人数の調整は難しいことではあるが、学習者のニーズを考慮してクラス調整をしていく必要がある。

3.2.2 Aクラス

個別質問項目の調査はクラス共通アンケートと共に行った。Aクラスの場合、午前は技能クラス、午後はSFJクラスと授業の性格、参加した学習者も異なるためアンケートの結果も分けて提示し、A午前クラス、A午後クラスの順で報告する。

3.2.2.1 A午前クラス（技能クラス）

A午前クラスは予備教育春学期を受講した学習者が継続して受講した。参加人数は5人であったがその内2人はD午後クラスの学習者だったため、授業最終日にアンケートをとることができなかった。よって結果はA午前クラス、A午後クラスをどちらも受講している3人のものである。

表13 A午前クラス（技能クラス）のアンケート結果

質問1：技能のクラスについて		
聴解	よかった	2人
	必要な文で止めてリピート練習があるともっとよかった 日本語で何を言っているのか同定させる問題が役立った	
	十分ではなかった もっと練習を増やしてほしい	1人
作文	よかった	3人
	トピックが面白かった 毎回たくさん作文を書いた 文法や語彙を理解するのに役立った	
	よかった	3人
会話	春より夏のコースの方が1週間に2回会話のクラスがあったのでよかった 十分だった。でももっと話す練習ができるとよかった	
	難しかった	2人
読解	漢字の授業で未導入の漢字が入っていたので質問しなければならなかった 1週間に1回だけだったのもっと練習したかった	
	よかった	1人
	漢字や文法の知識を改善するのに役立った	

質問2：技能の中でどれがもっとも役に立ったか	
会話	2人
日本人と話したりコミュニケーションとったりしたいから日本で住むには一番必要な技能だと思う	
作文	1人
全て大事だと思っているので選ぶのは難しい、強いて言うなら作文が重要だと思う	
質問3：漢字のクラスについて	
よかった	3人
誰が教えるかで違っていたが、ホワイトボードに漢字を書いて練習する方法がよかった 面白かったが「読み」を覚えるのは難しかった、背後にストーリーのある漢字は覚えやすかった とても役に立った、この授業があったことに感謝する	
質問4：漢字のクラスで取り扱ってほしい練習	
漢字の復習を随時入れてほしい ディクテーション等で漢字を使用する練習をしたい 漢字の入っている文章を読む練習をしたい 漢字の起源の正確な説明がほしい	

4技能に対する質問項目に対しては、「よかった」が多かった。「十分ではなかった」「難しかった」と回答している学習者の理由欄にも「もっと練習がしたかった」という回答が見られ、学習者の学習意欲の高さがうかがえた。実際、意欲的に授業に参加しており、各技能クラスでも学習者は活発に質問や発言をしていた。そしてもっとも役立つ技能としてあげられたのは会話であった。夏学期コースではクラス内での教師と学習者、学習者同士のやりとりでは主に日本語が使用されており、クラス内またクラス外でも日本語を話したいという動機が、会話練習に対しての直接の動機付けにつながっているものと思われる。漢字についても好印象を残す結果となり、漢字の字形を確認しながら書いたり、実際に漢字を使用したりという基礎的な練習を授業内で求めていることも明らかになった。漢字の練習として取り入れてほしいものに「漢字のディクテーション」があげられていた点は興味深い。今後の漢字のクラスでの練習に活かせるのではないだろうか。

3.2.2.2 A午後クラス (SFJクラス)

次はSFJを中心に行ったA午後クラスについてのアンケート結果である。

表14 A午後クラス (SFJクラス) のアンケート結果

質問1：学習内容について	
SD・CD・わくわく全部丁度いいバランスだった	11人
SD・CDはいい。わくわくは十分じゃなかった	1人
質問2：もっとも上達したと考える日本語の技能	
会話	2人
授業でたくさん話す機会があったから	
会話と聴解	2人
会話に慣れてきたから、聴解は一度聞いた問題だったから	
会話と作文	3人
会話と作文は技能の中でも重要だと思うから頑張った クラス内で会話や作文のテストがあったから頑張れた	
読解と作文	2人
新出語彙をたくさん勉強したから 一人で勉強できる技能はよくなったが、会話と聴解についてはクラス内で十分 な練習ができなかったから	
文法	1人
全ての技能	1人
何も	1人
技能を伸ばすにはコースの期間が短すぎた	
質問3：もっとも上達しなかった日本語の技能	
聴解	3人
コース内で聴解をあまりしていなかったから ナチュラルスピードだったので聞くのが難しかった	
会話	1人
自分の専門のコースでは日本語を使うことがないから	
漢字	1人
覚えるだけで使う機会がほとんどないから	
何も	7人
先生がいろいろ教えてくれたので上達しなかった技能はなかった 技能を伸ばすにはコースの期間が短すぎた	

A午後クラスを受講した学習者は、文法レベルも適当で問題はなく、授業内容についても、概ねバランスよく設定できたようである。しかし聴解については、ナチュラルスピードに慣れずに滞っていた学習者がいたことが分かった。最初はスピードを落とす、繰返し聞く等配慮する必要があるだろう。今後の課題としたい。

10日間、20コマの授業を行ってもっとも身についた技能については、「会話」と回答した学習者が7人と半数以上いた。授業内で質問や確認の時にも日本語を使用する学習者が多かったこと、口頭練習にも積極的に参加していたことが「話す」ことの意識化につながったものと考えられる。逆に上達しなかった技能を問うたところ、上達しなかった技能はな

かったと回答する学習者が7人と半数以上いた。この結果からも、短期間ではあったものの、学習者がしっかり集中して各自の学習意欲を保ち授業に取り組んでいたことがうかがえる。

しかし、アンケートの回答の端々で夏学期コースの短さに対しての言及も見られるように、技能の向上を実感させるには短過ぎたことも事実である。

3. 2. 3 D午後クラス

Dクラスはコース開始前と修了時にアンケートを行った。以下、事前アンケート、修了時アンケートの順に報告する。

3. 2. 3. 1 D午後クラス事前アンケート

事前アンケートでは、各学習者が日本語学習で何を苦手としているかを問い、また夏学期を受ける目的を書いてもらった。今年度の夏学期が短期間であることから、各学習者にコース参加の目的を明確に自覚してもらうこと、その目的を少しでも達成できるような授業への取り組みを意識付けること、そして教師が学習者について把握し、授業に反映することがアンケートを行う目的だった。

表15 D午後クラス事前アンケート結果

質問 1 : 日本語で何が苦手か (複数回答)			
文法	2人	読む	0人
漢字	2人	話す	6人
書く	1人	聞く	7人
質問 2 : 夏学期コースに参加した目的			
日本人と話したい			
日本語を自由に話せるようになりたい			
日本に留学し、これから4年くらいここにいる予定			
毎日日本人と話すのが必要で、日本語が上手になれば便利になる			
クラスの中でも外でも日本人ともっとコミュニケーションを持ちたいから			
日本語が通じなくて、仕事と生活が大変になってしまったから			
日本での生活をよりよくしたいから			
日本語が自分の専門だから			
専門の授業の理解のため			
自分の母国では、有名でも重要でもない日本語を勉強するのは個人的な欲求である			
日本語は美しい言語だと思うから			

夏学期を受講する目的は自由記述で書いてもらったが、「文法の復習 (6人)」「話すことが上手になる (5人)」「聞く能力をつける (4人)」という回答が多かった。また、日常生活の中で日本語を話したいと答えた学習者が2人おり、文法の復習とともに、学習した

日本語を会話として運用できるようにしたいというものだった。

その他、敬語の復習や敬語を話したり聞いたりできるようになると具体的に回答している学習者もいた。これは、このクラスで扱う学習項目の中に、謙譲語 (SFJ第18課) があり、敬語を学習者が苦手と感じている、あるいは、学習時に十分な理解ができず、なかなか使いこなせていないのではないかと推測できた。

3. 2. 3. 2 D午後クラス修了時アンケート

コースの修了時に、学習者 9 人に対してクラス独自の項目についてのアンケートを全体アンケートと共にを行った。アンケート結果は次の通りである。

表16 コース修了時のD午後クラスのアンケート結果

質問 1 : 授業のレベルについて		
	ちょうどよかった	5人
	難しかった	2人
	簡単だった	1人
	無回答	1人
質問 2 : 授業のスピードについて		
	ちょうどよかった	2人
	速かった	2人
	少し速かった	2人
	遅かった	1人
	無回答	2人
質問 3 : 学習内容について		
SD	よかった	3人
	簡単だった	1人
	既習なので問題なかった	1人
	内容はいいが、例が少なかった	1人
	内容はいいが、少し難しかった	1人
	もっと多いほうがよかった	1人
	ちょっと速かった	1人
よかった／適切		7人
CD	たくさん練習できた	
	日常会話に助かった	
	自然な会話を勉強した	
	既習なので問題なかった	1人
	よくなかった	1人
よかった		7人
T&A	たくさん練習できた	
	新しいクラスメートと一緒にやったから面白かった	
	よくなかった	2人
	難しかった	

質問4：このコースに満足しているか

満足している

6人

コースで日本語を毎日勉強できた
 復習したり、日本語で話したりして楽しかった
 日本語の勉強ができただけでなく、新しい友達にも会えた
 日本語の大切な文法である受身形と敬語を勉強できて、習いたかった
 内容が勉強できた
 とても有効なコースだった
 満足したが、もう少し上のレベルを勉強できたらもっと満足できたと思
 う

満足していない

3人

期間が短い、8月に入ってもいいから増やした方がいい
 他の学習者とのレベル差があり、ついていけなかった
 同じレベルの学習者と勉強したかった

修了時に行ったアンケートでは、その他の質問項目で、予習をしたか、宿題を毎回提出したか、クラスでの活動に積極的に参加したか、などを聞いたが、ほぼ肯定的な回答が得られ、出席率を見ても、クラスにおける態度を見ても、総体的に学習意欲の高いクラスだったといえることができる。

しかし、学習者のレベル差が満足感に差をもたらしたことは否めない。特に予備教育春学期コースからの継続者で、初めて第16課から第18課を学習した2人には、既習者との差を強く感じさせることになってしまったようである。教師側は、この2人の学習レベルに合わせて授業を進めることを申し合わせていたのだが、実際の授業では、既習者から2人が理解できない質問が出ることも多くあり、最後までよく頑張っていたが、この2人は自分たちだけが分かっていないという心理的なストレスを感じてしまったようだ。クラスの学習者のレベルの構成とそれに伴うカリキュラムの組み方については今後の課題としたい。

また、本コース参加の目的への回答で、日本での生活や専門科目等の学習のために、日本語での会話におけるコミュニケーションを勉強したいという学習者が多かったが、初級を対象にした夏学期コースにおいても、技能別クラスとして聴解や会話を取り入れることを検討することを、今後の視野に入れてよいのかもしれない。

3.2.4 D午前クラス

コース修了時に、学習者7人に対してクラス独自の項目についてのアンケートを全体アンケートと共に行った。アンケート結果は次の通りである。

表17 D午前クラスのアンケート結果

質問1：授業のレベルについて		
	ちょうどよかった	5人
	少し難しかった	2人
質問2：授業のスピードについて		
	ちょうどよかった	3人
	少し早かった	2人
	とても早かった	1人
	少し遅かった	1人
質問3：学習内容について		
SD	よかった	7人
CD	よかった	6人
	練習時間が短かった	1人
わくわく	よかった	6人
	少し難しかった	1人
宿題	ちょうどよかった	5人
	多い	1人
	少ない	1人
SDクイズ	よかった	7人
質問4：このコースに満足しているか		
	満足している	7人
	このコースはとてもよくて、役に立った。怪しいところを復習できたり、日常的な会話も練習した このような勉強を続けてしたい とてもおもしろくて、よかった 文法をよく習った 能力を伸ばす機会になった 教師の全員が自分たちに内容を教えるために本当に頑張ってくれた 能力が上がった	
質問5：このコースで満足できなかったことは何か		
	無記入	4人
	ない	1人
	次の課も先生に教えてほしかった	1人
	時間が短かった	1人
質問6：その他		
	勉強時間を長くして、1ヶ月ぐらいにしてほしい 発表時間がない 同じ内容で、3週間がよかった	

学習者は非常に学習意欲が高く、授業中の会話練習も積極的で、教師に対する質問も活発であった。毎回の宿題に対しても熱心に取り組んでいた。

コース全体に関しては、全員が満足していると回答しており、どの学習者にとっても評価されていたと言える。このスケジュールは授業外の予習・復習を前提としたもので、宿

題も多かったのだが、そのことはこのクラスの学習者には負担にならず、意欲的に取り組んでいたようである。

しかし、コース期間や授業の進度については、授業のスピードが速かったという回答や会話の練習・発表時間が短かったという回答もあった。文法項目を扱うSDは宿題などでカバーできたが、会話を扱うCDでは授業時間ですべての項目を扱おうとするとどうしても時間が足りなくなり、そのことがアンケート結果に反映されたのだと思う。できるだけ会話練習の時間を取りたいと思い、2コマをCDのための時間に使っていたのだが、CDの練習時間を増やすだけでなく、SDの練習活動もなるべく会話の練習にもなるようなタスク活動を行う必要があるだろう。これは今後の夏学期に生かされるべき点である。

最後に、コースの期間が短く、もっと長くしてほしいという回答が多く見られた。期間を長くすることで、同じような進度でも、次の学期からのレベルアップがより可能になるだろう。もしくは、期間を長くすることで、進度を落とし、より学習項目の理解を実感できるようにすることも可能である。受講者に合わせたコーススケジュールをどう立てるかという点も、今後の課題であろう。

4. まとめ

震災の影響を受け、今年度は例年より2週間短縮の夏学期コースであったが予想に反し、前年度よりも多くの受講者の申し込みがあり、意欲的な学習者が集まった。10日間という短いプログラムだったものの、設定された4クラス共通で特記すべき点は、日本語学習に対しての学習者の学習意欲の高さである。日常生活のコミュニケーションに活かす、自身の専門や進路のために等、学習者個々の目的は異なるが明確な目的、目標を持った学習者が大半であった。

また、補講クラスからの受講者も前年度と比べると増えてきている。補講クラスからの学習者の特徴としては、レベルアップを目的としていた学習者と復習を目的としていた学習者とに大きく分けられた。予備教育の春学期から継続して夏学期を受講した学習者については、春学期から夏学期でクラス人数が急に増えたこと、既習の学習者の存在等で混乱があるかと危惧したが、各々の学習意欲を崩さずに頑張る様子が見られた。これらはアンケートの結果からも見ることができる。しかし、クラス内での日本語習得レベルに差が見られた。明らかな学生のドロップアウトはなかったが、今後プレイス前のインタビューで受講の目的を聞く等、何らかの対処が必要だと思われる。

夏学期コース期間の短さについてもアンケート結果に明確に表れている。夏学期コースの授業コマ数や期間について学習者が希望しているのは、1日の希望のコマ数は2コマ、期間は4週間から1ヶ月というものだった。今年度の短期間の夏学期コースを体験した学習者の回答は前年度の希望期間と合わせ、今後の夏学期の期間を決定する貴重な資料にな

ることだろう。

夏学期コースの全てのクラスに共通して言える問題点は、連続欠席した学習者の存在だった。全授業の80%は出席することを約束し、それを了承した学習者だけを受け入れているにもかかわらず、欠席者は全てのクラスに存在した。欠席者に対しては、2回以上休んだ学習者にはメールで通知する、電話で連絡を取る等、対処法については今後の課題としたい。

5. おわりに

予備教育の学習者以外の学習者を夏学期コースに受け入れ始めて今年で2年目となる。様々な背景の学習者が同じクラスで学習したことで、学習者により受講の目的が異なることも体験として見えてきた。また今年度もコースコーディネーターは非常勤講師が担当した。こちらも2年目となる。担当としてコースデザイン、カリキュラム作成等行い、反省することは多々あれど専任の先生方、授業担当教師の方々、また学習者の協力あって無事修了することができたことに感謝したい。

注

1. 春の予備教育コース予備教育受講者で修了後、継続して本コースを受講した学生を指す。
2. 補講コースを受講していた学生で、予備教育夏学期コースに新規に申し込んできた学生を指す。

参考文献

- 大坪一夫編、TSUKUBA Language Group (1992) 『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE』 volume1. drills 凡人社
- 筑波大学留学生センター TSUKUBA Language Group編 『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE mini』
- 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子 (1989) 『BASIC KANJI BOOK』 凡人社
- 小林典子・フォード丹羽順子・高橋純子・梅田泉・三宅和子 (1995) 『わくわく文法リスニング99』 凡人社
- 石上綾子・柳田しのぶ・宮崎恵子・平形裕紀子 (2010) 「2010年度日本語予備教育夏学期コース報告」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 26 : 99-115

質問1 どうして夏学期コースで勉強しようと思いましたか。(夏学期に参加した理由)

Why did you apply to the summer course?

質問2 日本語がもっと上手になりたい、日本語をもっと勉強したい理由は何ですか。

What is your purpose for studying Japanese?

質問3 夏学期コースでどんなことを勉強したかったですか。

What did you expect from the summer course?

質問4 夏学期コースの一日の授業数はどうでしたか。

Was the number of classes per day appropriate?

質問5 夏学期コースの期間はどうでしたか。

How was the overall length of the summer course?

質問6 夏学期コースの学習内容はどうでしたか。

Did you feel that the contents and the level of this course were appropriate?

- ① SDについて (About the SDs)
- ② CDについて (About the CDs)
- ③ わくわくについて (About WAKUWAKU)

質問7 この夏学期コースについて、満足していますか。理由と一緒に書いてください。

Were you satisfied with this course? Please write the reason.

質問8 来年度も夏学期コースで勉強したいですか。理由と一緒に書いてください。

Do you want to take the summer course again next year? Please write the reason.

質問9 来年度の夏学期コースは一日何回の授業を希望しますか。

How many hours a day is appropriate?

質問10 来年度の夏学期コースはどのくらいの期間を希望しますか。

What would be the best overall length for the summer course?

質問11 来年度の夏学期コースはいつから始めたらいいですか。

What would be the best starting date for the summer course?

質問12 来年度の夏学期コースはどのような授業内容がいいですか。

What do you expect in regard to the contents of the class?

質問13 有料でも夏学期コースを受講しますか。いくらまでなら受講しますか。

If you had to pay money to take the course, would you still apply?

What is the maximum you would be willing to pay?

質問14 その他、夏学期コースについて意見があったら書いてください。

Write any additional comments you have about this summer course.